

『キクスイカミキリの防除』

現在、家庭園芸のキクでキクスイカミキリが多発し、キクの生長点に萎れ症状(写真1)が多く見られます。多発すると防除が難しくなるので早期防除に努めてください。

《被害の特徴》

成虫(写真2)の発生時期は4月中旬～6月で、茎の先端から10cmくらい下を1cm間隔で円周状に噛んで2段の筋(写真3)をつけ、その筋と筋の間に卵を産み付けます(写真4)。導管を切られるので、筋から上の部分は萎れてしまいます。孵化した幼虫は茎内部を食害し、秋に成虫となり茎の中で越冬します。



写真1 生長点の萎れ



写真2 成虫(体長6～9mm)



写真3 噛み傷(産卵痕)



写真4 卵

《防除方法》

- ① 成虫は、日中活発に動きまわるので、活動のにぶる朝夕に捕殺してください。
- ② 孵化した幼虫は茎の中を下方に移動するので、萎れた茎を見つけたら、折れた所からさらにおよそ5cm下を余分に切り取り、ゴミ袋に入れて焼却処分をしましょう。
- ③ ヨモギなどのキク科雑草が発生源となるので除草に努めてください。

※ 現在、キクスイカミキリに適用のある薬剤はありません。